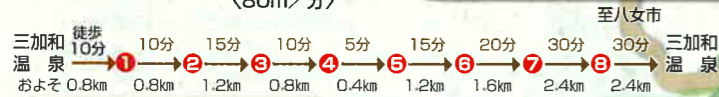


# 八つの神様ご利益めぐりエリアマップ

■「神様めぐり」所用時間  
(80m/分)



6 命の神様



4 性・腰の神様



3 胃の神様



2 イボの神様



5 歯の神様



1 目の神様



7 耳の神様



8 手足の神様



■交通のご案内

- 南関 I.Cより車で10分
- 菊水 I.Cより車で15分



お参りのあとはのんびりと温泉はいかがですか

●三加和温泉  
ふるさと交流センター  
大浴場、露天風呂、エステ湯、打たせ湯などバラエティに富んだ浴槽を備えた温泉とステイ付大広間、中・小広間、休憩室、食堂、特産品展示即売コーナーからなる健康レクリエーション施設です。

ハウス  
●あばかん家  
サウナ温泉を備えた眺望のすばらしい大浴場、大広間、お食事処、売店それに地元在住の版画家・木彫家・陶芸家の作品を展示する「ギャラリーみかわ」などがあるコミュニティハウスです。

お問い合わせは 三加和町役場 企画観光課  
TEL 861-0992 熊本県玉名郡三加和町板楠70番0  
TEL 0968-34-3111 FAX 0968-34-3318  
URL <http://www.town.mikawa.kumamoto.jp/>



目の神様

岩本宮



戦国時代、肥前の竜造寺軍勢が神尾城（城主大津山家）を攻めた時、一人の手負いの武士が、この岩壁の中腹の藤かざらにひっかかり宙吊りになっていたのを小次郎丸の村人達が見つけ下ろしてやっめたものの、敵の侍と知り怖さのあまり、勤・敏等で打ちこころしてしまつたという。その武將は岩本と名のつたという。村人たちは、敵將とはいえ惨殺したことを後悔して、この地に手厚く葬り、いつの頃からか小さなお堂が建てられ、それを岩本神社と称し、通称『岩本さん』と呼ぶようになった。それ以来村人達は、無病息災・家内安泰の祈願所としてたてまつり、又特に目の病に靈驗あらたかな神様として祭られるようになったと言われている。

ここに鎮座している巨石を総称して、地元では『いぼ石さん』と呼んでいる。この石は、いぼ取りに効能のある神様として、昔から参詣する人が多く、いぼで悩んでおられる方々の祈願所として祭られている。願の数だけ煎った大豆を献上し、石の上に患部をすりつける習わしがあり、御願成就の際は、必ずお礼参りをすることになっている。



イボの神様

自然石



ここに鎮座している巨石を総称して、地元では『いぼ石さん』と呼んでいる。この石は、いぼ取りに効能のある神様として、昔から参詣する人が多く、いぼで悩んでおられる方々の祈願所として祭られている。願の数だけ煎った大豆を献上し、石の上に患部をすりつける習わしがあり、御願成就の際は、必ずお礼参りをすることになっている。



胃の神様

石祠



昔は、正月や例祭日には、近所はもちろんだ方々からも大勢の参拝者があつたと言われているが、地元では昔から『胃病に御利益がある神さま』との言い伝えがあり、胃痛の治療祈願の折には、どじょうを参道途中の池に入れてお供えする習わしがあったという。昔から、胃弱の人が、お参りを続けるという靈驗あらたかな神様の一つである。



性・腰の神様 七郎神(塩井合神社)

七郎神



正治二年(西暦1200年)十二月四日、坂梨家の祖である坂梨弥五助は、土地鎮護と農耕開拓の守護神として、肥後一の宮阿蘇神社本宮より、御分霊を戴き、この吉地村に下り、山森阿蘇神社を創建したと行われている。その時、供養の一人として同行してきた坂梨七郎右衛門は、この塩井合に住居を構え、農耕技術の普及に貢献したと伝えられている。村人達は、七郎右衛門の地域では、毎年農作物の豊作を祈願し、種の繁殖増強とともに、生むは産むに通じ、子孫繁栄安産・夫婦和合の神様として、蔭聖弱き人・子宝に恵まれぬ人・縁遠き男女・夜尿病・足腰の病等諸病に悩む人々それぞれに靈驗があり、現に受児除災・蔭聖弱き人・足腰の病等著しき御靈驗を受けて歓喜している事実がある。信仰・祈願する人は、作りものは白色、女は赤色の布に住所・氏名・年齢を書いてお礼参りをする風習がある。



治らぬ病の神頼み

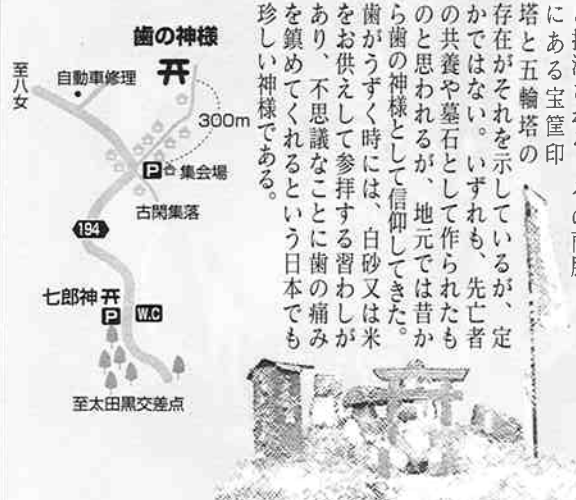
靈驗あらたかなる八つの神様

歯の神様

墓石(板碑)



歯の形に良く似た墓石(板碑)は、鎌倉時代から室町時代にかけて造立されたのではないかと推測される。その両脇に塔と五輪塔の存在がそれを示しているが、定かではない。いずれも、先亡者の共養や墓石として作られたものと思われるが、地元では昔から歯の神様として信仰してきた。歯がうすく時には、白砂又は米をお供えして参拝する習わしがあり、不思議なことに歯の痛みを鎮めてくれるという日本でも珍しい神様である。



命の神様

遠野立神 石祠



御神体は石であり。昔から『命助けの神様』と言われ、生死にかかわる病気の時、一生に一度だけ平癒を願えば、必ず叶えられると言われている。地元では『坂梨弥五助が山森阿蘇神社を勧請した折に建立されたのではないかと』言われている。三加和町には、体にまつわる八つの神様が点在しているが、中でも命にかかわる神様として異色の存在である。



耳の神様

墓石



柳川由布大炊助の墓 刻銘：柳川由布大炊助、妻 由采彫字 天正十五年(西暦1587年)十二月、佐々成政の要請を受け、和仁一族の田中城攻めに参戦した大炊助は、豊後由布氏の一族で、筑後柳川城主・立花宗茂の家人であった。騎馬大将として先頭に立ち、大手門より攻めいく中で、家来から『あぶのうござる！お下がりで下され！』と強く勧められるも、もともと耳の不自由な大炊助には届かず、城中から放たれた矢に胸を射抜かれ討死したという。それを伝えた村人達は、大炊助を丁寧に葬り代々共養をし続けてきたことが、後の悲話として語り継がれている。墓前には、火吹き竹が供えられ『耳の神様』として祭られている。



手足の神様

石祠



立山の足手荒神は、その昔六嘉(現在のの上益城郡嘉島町)の足手荒神を分霊して当地に祭祀したと言われており、現在も当時のままの状態で見守られている。足手荒神前の小さな池には以前は白い水がこんこんと湧き出たそうであるが、水量は減ったものの今も白い水が同様に湧き出ている。それを伝える伝承話に『竜神がくれた乳の水』として、今も語り継がれている。足手荒神さんと白い水は、昔から深いかわりがあり、昔靈驗あらたかな祈願所として、静かなブームを呼んでいる。

